

2014.12.25

省エネルギー・新エネルギー分科会

省エネルギー小委員会（第8回）コメント

株式会社エネット
代表取締役社長
池 辺 裕 昭

[資料 省エネルギー小委員会におけるこれまでの議論の中間的整理（案）]

- 電力システム改革において、2年後の2016年には、家庭部門も含め、すべてのお客さまが電力会社を選べる小売全面自由化を迎えます。新電力も多数参加する競争環境の中で、いよいよお客さまの声や視点を取り入れた多様な料金メニュー・サービスメニューが創られる時代となります。お客さまの電力使用の工夫が生まれることにより、省エネルギー、ひいては社会コストの最小化に貢献するものと考えています。
- 多様な料金メニュー・サービスメニューがお客さまに受け入れられるためには、企業側の創意工夫に加え、制度的な対応やプラットフォームづくりが必要であると考えています。
- 例えば、ディマンドリスポンスを活用したネガワット取引については、これまでの小委員会の中でも、
 - ① 取引市場等で取引されるようになれば、ネガワットの価値が適正な価格で評価されることになり、卸市場の活性化につながり、競争が進展すること
 - ② 省エネルギー・ピークカットにも効果があること
 - ③ お客さまのメリットにもつながることから「三方よし」の概念であると申し上げてまいりました。
- ネガワット取引をさらに普及させるためには、
 - まず ベースラインや削減量の測定など、統一的な評価方法を確立し、
 - 次に ネガワット市場を早期に創設し、
 - その上で 市場参加者が利用しやすい仕組みを整備していくこと、以上3点が重要であると考えています。
- 1点目の「統一的な評価手法」については、ガイドラインを「本年度中に策定する」など、「これまでの議論の中間的整理」に具体的に示されています。2点目の「ネガワット市場の創設」、3点目の「市場参加者が利用しやすい仕組みの整備」についても、今回の中間的整理を踏まえ、電力システム改革の動きの中でぜひ実現いただきたいと考えています。

以 上